

みんなが主役のまちづくり
—身近な暮らしを支える自治会活動—



自治会ってなんだろう、どんな活動をしているのだろう、と疑問に思ったことはありませんか。自治会は皆さんの生活に密接に結びついており、自治会の活動によって私たちの安全・安心な暮らしや環境が維持されています。今回はそんな「自治会活動」の一部を紹介します。

☎コミュニティ推進課コミュニティ推進係 ☎73-9126

【自治会ってなんだろう？】

自治会とは、地域住民が安全・安心に暮らせるように自主的な活動を行う自治組織です。小郡市では「〇〇区」という呼び方が一般的です。

市内には62の自治会があり、組織の代表である「区長(自治会長)」を中心に、各地域の特色に応じたさまざまな活動を実施しています。

【人と人のつながりづくり】

自治会活動をおして住民同士が交流し、顔見知りの関係をつくることは、地域の防災力向上や社会的孤立の防止など、困った時の助け合いの基盤になります。

【災害時の助け合い】

災害はいつ、どこで起こるかわかりません。特に大きな災害が発生したときは、行政がすぐに対応できないこともありま。こうした事態に備え、自治会では防災訓練や研修会を行い、いざというときの情報伝達や安否確認の方法を独自に定めています。

まちづくりのすすめかた

令和5年3月に「まちづくりガイドライン」を作成しました。市がめざすまちづくりの方向性と指針を示しています。



夏祭り



防災訓練



自治会活動には皆さんの協力が
必要不可欠です

安全・安心なまちづくりのためには、自治会活動をはじめとした住民同士のつながりがとても大切です。皆さんが自治会に納めている会費は、安全対策や環境美化、防犯灯の維持管理や各種イベントなどの自治会活動に充てられています。コミュニティの最小単位である自治会を基盤として住民同士がつながり、助け合い・支え合いの輪が広がることで、小郡市がより温もりのある暮らしやすいまちになっていきます。まずは皆さんの無理のない範囲で、できることから始めてみましょう。



どんな活動をしているの？

【上中サンタ】

上町区と中町区では、毎年12月にサンタの衣装を着た区長が75歳以上の高齢者宅を訪問し、小郡産の野菜やお米をプレゼントする「上中サンタ」という取り組みを行っています。「コロナ禍で人と接する機会が減った高齢者のために何かしたい」という思いから令和2年度にスタートし、6回目を迎えました。

ただプレゼントを届けるだけでなく、高齢者世帯の見守りにもつながっています。



上町区 伊達昭区長(写真右)
「サンタの来訪を待っていて、笑顔で出迎えられるとうれしい。地域であたたかい関係を育んでいきたい」

【もちつきに外国人留学生を招待】

東野区では、自治会のもちつきに市内の日本語学校に通う外国人留学生を招待し、一緒にもちつきを体験しました。

東野区の鴛海雅尋区長は、「区の一員として仲良くなりたいと思い招待した。」

住民同士の良好な関係づくりは災害時のためだけではなく日常の小さな心遣いにもつながる。「外国人と話してみると、にこやかで明るい人が多い。まずはあいさつをコミュニケーションの第一歩にしたい」と話していました。



小郡市で暮らす外国人は年々増加しています。文化の違いに戸惑うこともありですが、積極的にコミュニケーションをとり、地域の一員としてお互いに理解し合うことで、誰もが安心して暮らせるまちづくりにつながります。

【清掃活動で地元企業と協力】

下町区では、清掃活動の参加者減少や高齢化が課題になっていました。そこで、地元企業に協力を依頼したところ、5社から36名が参加。多くの人手が集まったことで作業が円滑に進んだほか、重機での作業も行われ、水路は見違えるほどきれいになりました。

下町区の野口成之区長は、現役世代も参画しやすい自治会運営に力を入れていて、トップダウンではなく「みんなで決める」「みんなでやる」という姿勢を大切にしていきます。地元企業や市役所と連携

しながら、時代に合った仕組みをつくり、持続可能な自治会運営を模索しています。



三井高生も活躍しています

三井高校2年生は、授業の一環として自治会活動に積極的に参加しています。3月3日には、松崎区の住民を招待してスポーツイベントを実施。企画・運営を担って行事を支えるとともに、地域住民と交流を深めました。

そのほか、自治会の課題解決にも取り組んでおり、区長へのアンケート実施や自治会加入を呼びかけるチラシの作成など、高校生ならではの視点でまちづくりに参画しています。



自治会活動についてもっと知りたい場合は、コミュニティ推進課にお尋ねください。